

雲北陵月報

No. 486

令和8年2月27日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷



贈る言葉

学年主任 尾添喜行

「ご卒業おめでとうございます。3年前の『出雲北陵月報』No.452には、皆さんが入学した日のことが一面を飾っています。」

前日からの雨が未明には止み、入学式が始まるころには陽光がさしていき、穏やかな春の陽光うららかに降り注ぎ、「……」という春き出したのはそのためでしょう。初めて学年主任となった私は、いきなり6つのクラス担任になったようで、皆さんと同じく、期待と不安を抱えて入学式に臨んだことをはつきりと覚えていました。

新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したのもこの年の5月のことで、今まで自粛・制限されてきたことのほとんどがコロナ禍前に戻りました。皆さんは意欲的に学校行事に取り組み、駆け抜けるように充実した高校3年間を過ごしました。とりわけ2年生で実施した「キャリア教育関西研修旅行」での、当日欠席者、研修中のリタイアがなかった(在籍する2年生全員参加)ことは、過去の研修旅行(大山スキー研修を含む)にも記憶がないほどの偉業だ?と称賛されました。とにか皆さんは学校を休まない。定期テストも、球技大会や学園祭などの学校行事も、何もない授業だけの日々も、全員参加でした。これは誇るべきことだと思えます。将来の生活の中で必ず役立つことだと思えます。あれから3年、来月の『出雲北陵月報』No.487は皆さんの卒業式が一面を飾ります。3月2日の別れの日の前に、これから旅立つ皆さんに贈る言葉……。

『なぜ成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり』

これは、20年前に発刊した、出雲北陵高校教職員随想集『高校ルネサンス』に収録の言葉。『為す』は「する・やる」という意味で、「成る」は「できる・成功する」という意味です。

「『なぜ成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり』」
「ダメ! 無理、無理!」
「できらんし!」
「ダメ! 無理、無理!」
「できらんし!」
「ダメ! 無理、無理!」
「できらんし!」
「ダメ! 無理、無理!」
「できらんし!」

「『なぜ成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり』」
「ダメ! 無理、無理!」
「できらんし!」
「ダメ! 無理、無理!」
「できらんし!」
「ダメ! 無理、無理!」
「できらんし!」
「ダメ! 無理、無理!」
「できらんし!」

卒業に寄せて



三年一組担任 金森 快

移り変わる季節の中で、喜びも悩みも分かち合った多感な三年間。その日々を糧に、この出雲北陵高校を力強く巣立つべく卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませぬ。

桜の花は、冬の寒さが厳しい年ほど、その色は濃く鮮やかになると言います。また、雑草も踏みつけられる度に、土の奥深くへと根を伸ばします。

葛藤や困難を乗り越え、大きく羽ばたく皆さんの未来が幸多からんことを祈念し、お祝いの言葉といたします。保護者の皆様、三年間多大なるご支援をいただき、有難うございました。

卒業おめでとう



三年二組担任 井上 美代

四月に担任となり、あつという間に卒業を迎えました。地元インターハイもあり、特に一学期はバタバタとしており正直記憶がありません。笑。そんな忙しい中でも、自分達のことをきちんとしてくれ、助けられたことも多くありました。二組は何年も担任をしてきたように思えるくらい馴染みやすいクラスでした。皆さんを担任することができても充実した期間を過ごすことができました。この先色々なことがあると思います。良いことも、苦勞も乗り越え充実した人生を歩んでください。一年間という短い期間でしたが、有難うございました。楽しかったです!

三組の皆さんへ



三年三組担任 松井 仁志

ご卒業、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

振り返れば、皆さんと進路について語り合った日々はつい先日のことのように、月日の流れの速さを改めて感じています。皆さんはこの四月より、これまでとは異なる新たな環境へと歩みを進められます。それに伴い、自身の言動に対する責任の重さも一層増します。期待が膨らむ一方で、不安を覚えることもあるかもしれません。しかし、明朗さと旺盛なバイタリティーを兼ね備えた三組の皆さんであれば、どのような困難に直面しても、必ず乗り越えていけることと確信しています。どうか、新たな目標や興味を見いだし、力強く挑戦を続けてください。

皆さんのご健勝と、これからの更なるご活躍を、学び舎より心よりお祈り申し上げます。

日々成長



三年四組担任 妹尾 一希

皆さんと担任として過ごしたのは一年間だけでしたが、授業を通じれば、三年にわたる付き合いになりました。頑張り時は頑張り、ふざける時は思いっきりふざける。そんな皆さんの抜群のチームワークや、成長を感じさせる姿には、何度も感心させられました。皆さんと楽しい時間を共有できたこと、そしてこの出会いに心から感謝しています。本当に有難う。

感謝の代わりに、皆さんがこれから歩む人生の指針にして欲しいことを伝えます。人生は、日々の些細なことから大きな決断まで、選択の連続です。もし選択に迷った時は、ぜひ「自分が成長できる方」を選んでください。

「どちらが楽か」ではなく「どちらが楽しいか」
「どちらが損をしないか」ではなく「どちらが後悔しないか」
「どちらが簡単なか」ではなく「どちらが成長できるか」

人としての成長を止めないこと、そして自分を諦めないこと。皆さん一人ひとりの素晴らしい個性が更に輝くよう、これからも歩み続けてください。卒業おめでとう!

迷いの中で



三年五組担任
柳樂 正也

本当に自分の身になるのは、自分で考えて行動したことではないか？という話をこの2年間で何度かしました。なかなか行動に移さないと感じる人が多くやきもきしましたが、最後はそれぞれの進路に向けて行動し、成長する姿が見られたのはとてもうれしく思います。

私が皆さんと過ごしたこの2年は、自身の迷いと闘いながら過ごした時間でした。そんな中でも皆さんの存在があったからこそやり通せたと思っています。これから先はこれまで以上に大きな壁にぶつかることになるでしょう。そんな中で自分との対話を大切にしてください。答えが出せなくてもがき続けていくんです。何か気付きを得て前へ進む力としてください。皆さんの今後の活躍を心から祈っています。

卒業おめでとう。



三年六組担任
竹内 康貴

朝教室を覗くと、いつもの雑談や笑い声はなく、机と椅子だけが静かに佇んでいます。六組の皆さんがいらない教室を見ると、ただただ寂しさが込みあげてきます。

芸術コースの14名は、この3年間、学業や部活動、芸術活動においてよく努力し、また互いに切磋琢磨し、高みを目指して成長しました。皆さんは、本校に素晴らしい足跡を残しました。本校で培った経験と出雲北陵高等学校卒業生としての誇りを胸に、「柔しく剛く」、立派な社会人になってください。そしていつまでも変わらない君達でいてください。

いよいよ巣立ちの時。皆さんとの別れは辛く寂しいですが、私も皆さんと一緒に新たな一歩を踏み出そうと思います。卒業、おめでとう！

卓球部

天皇杯・皇后杯2026全日本卓球選手権大会

（一般・ジュニアの部）
時 1月20〜25日
於 東京体育館

＜ジュニア男子シングルズ＞

ベスト32 三好蒼空（22北機）

2回戦敗退 波多間侂偉（13北機）

○大会総評

上位進出には至らなかったものの、三好が4回戦まで進出し、今後の更なる活躍に期待を抱かせる内容であった。全国トップレベルの選手と対戦する中で、技術の正確性やプレートの安定性、更には戦術の幅において、依然として差があることが明確になった。今回の大会を通して明らかにした課題を真摯に受け止め、今後の練習で克服していきたい。

全農杯2026全日本卓球選手権大会

（ダブルスの部）
時 1月29日〜2月1日
於 スカイホール豊田

＜男子ダブルズ＞

1回戦敗退

大村 心（32龍）・黒田昌秀（法政大学）組

○大会総評

大村が本校卒業生である黒田昌秀とペアを組んで出場した。全国大会の厚い壁を痛感する結果となったが、日本最高峰の舞台でプレーできたことは大村にとって非常に貴重な経験となった。今回の経験を今後の練習や大会に生かし、更なる成長に繋げていきたい。（顧問 古瀬泰之）

男子バスケットボール部

中国高等学校バスケットボール新人大会

時 2月6〜8日
於 広島県立総合体育館

○大会総評

1回戦 本校 46-62 岡山工業（岡山県）
岡山県2位で出場した岡山工業高校に敗れ、初戦敗退となった。序盤の入りは良く、本校のバスケットが展開できた。しかし、相手に対応され始め徐々に点差を縮められ逆転された。前半11

点リードを許す展開となり、後半巻き返しを図ったが、思うように得点が伸びず、最後は逃げ切られた。今後、基礎基本を更に徹底し、全国レベルの高校生達に負けないチームを目指し、精進していきたい。

最後になりますが、保護者やOBの皆様には悪天候の中、会場まで足を運んでいただき、温かいご声援をいただきましたこと感謝申し上げます。（顧問 手島幹人）

吹奏楽部

第49回全日本アンサンブルコンテスト中国大会

時 2月8日
於 倉敷市民会館

本校からは木管5重奏とサクソフォン4重奏の2チームが出場した。生徒達は最後まで努力し、美しい音色で素晴らしい演奏を披露することができ、観客から大きな拍手をいただいた。結果はサクソフォン4重奏は金賞、木管5重奏は銀賞をそれぞれ受賞したが、目標としていた全国大会出場は叶わなかった。

この貴重な経験を糧に、更にレベルの高い演奏、そして皆様に愛されるバンドを目指し、日々精進していきたい。引き続きご支援ご声援のほどよろしく申し上げます。
・サクソフォン4重奏 金賞
・サクソフォン4重奏曲/A、ダンツイ
・木管5重奏 銀賞
・木管5重奏曲Osgun/F、ダンツイ

ふれあいコンサート

時 2月11日
於 大社文化プレイスうらら館

【演奏曲目】

- ・シャイン・ダウン/S・サンデイ
 - ・リバーダンスより/B・ウィーラン
 - ・エル・ティグレ/J・ヒギンス
 - ・ウィー・ゴー・オン/G・グリーンナウェイ
 - ・トリユーバー・サリュート/J・ポコック
- 出雲地区の小・中・高校の吹奏楽部による「ふれあいコンサート」が開催された。このコンサートは、新メンバーになって初めてのステージとなるコンサートで、各校のフレッシュでエネルギー溢れる演奏が続いた。本校は、1・2年生44名とカラーガー



ドとして3年生5名でステージドリルで出演した。少ない時間であったが、部員達は精一杯の努力をし、本校らしいステージを披露した。来年度も皆さんに愛されるバンドを目指し、日々精進していきたい。（顧問 竹内康貴）

合唱部

第37回松江プラバ室内合唱コンクール

2月1日、さんびる文化センタープラバホールで行われた第37回松江プラバ室内合唱コンクールに参加した。このコンクールは、3年生部員12名が卒部し、1・2年生13名での初めてのコンクールであった。

生徒達は緊張感の中にもやる気に満ちた表情で本番当日を迎えた。本番ステージでは、アカベラの曲を1曲、ピアノ付きの曲を2曲計3曲を演奏し、ホール中に響き渡る合唱を堂々と披露した。結果は、高等学校部門を通して金賞第1位を受賞することができた。来年度のコンクールに向けて、更に緻密な練習を重ね、演奏の質の向上を図っていきたい。（顧問 布野浩志）

美術部

高文連出雲地区彫刻講習会・コンクール

時 1月30日
於 出雲高校

高文連主催の出雲地区彫刻講習会・コンクールに19名の部員が参加した。講習内容は石膏を素材に卵の形を作り、その後、形を変形・変化させて抽象形態を作るものであった。参加生徒達は皆熱心に取り組み、優れた作品を作っていた。全参加者から70点の作品ができて上がり、その中から入賞作品が7点選ばれ、内2点が本校からの作品だった。今後には生きる貴重な経験となった。（顧問 石倉 正）

作品と研究

「礼法を学んで」

本校の一年生が学ぶ毎週一時間の礼法は、「礼儀」と「作法」について学びます。社会に出た時に、自身を律して周囲の人とよりよいコミュニケーションをとっていくための学びでもありません。

岩本 遼太(11歳)

私は本校に入學したときに、礼法という授業があるということを知りました。初めは礼法を学ぶ意味がよくわからなかったのですが、礼法の大切さ、本校の歴史を学ぶことで理解できるようになりました。私は野球部に入っているのですが、礼法については周りの人たちよりわかっていると思っていました。そして、礼法を習ってからは、今までに身につけていた礼儀に、より自信をもてるようになりました。

礼法は他科目と違う成績の評価がありません。始めは「良」の成績でもいいかと思っていました。しかし、もっと勉強して礼儀を学び最高の「秀」を目指すようになりまし。テスト期間にノートをまとめたり、休憩時間に友達と実習の練習をしたりして、目指していた「秀」を取ることで、とても喜びました。この成績を機に、次は周囲の人から目指してもらえような人間になりたいと思います。

二年生になったら礼法は無いので、学んだ経験を忘れずに覚えておき、社会に出ても活かせるようにしていきたいと思ひます。

河原 光助(12歳)

僕は、約一年間の礼法の授業を通して改めて礼儀というものを学べたと思います。特に今まで意識をあまりしていなかった正しい部屋の出入りや、授業を始める際の黙想の由来についても知ることができました。一年間ではありますが、すごく貴重な時間になったと思います。実習の中でも職員室を始めとする部屋の出入りでは、室内にいる人のことを考えて、ドアを自分の肩幅まで開けて入室した方がよいこともわかりました。礼法と言う授業は、最初はあまり役に立たないだろうと思っていたけれど、椅子からの立ち上がり方、座り方や服のたたみ方などを実習を通じて意識できるようになったのでよかったです。

僕が必要ないと思っていたこの授業は、最終的には将来の就職の時の面接試験から実際に働き始めていくときに非常に役立つだろうと思うようになりました。だからこれからもこの礼法で学んだことを大切にしていきたいです。

今田 心(13歳)

私は、本校で「礼法」を学ぶと知った時、ただ礼や言葉遣いを学ぶのだろうと思っていました。しかし、学びの中で、私たちの将来のために役立つ知識や、社会人としてふさわしい人となるための常識を学ぶことが多く、今後社会人になっていく私たちにとってはなくてはならない授業だと感じています。礼法を社会人になる段階の前の私たちがどんな場面でもよく使うかを考えたとき、物の受け渡しの実習を通して、私は部活動で出場したときの大会の表彰を思い浮かべました。だから学校で、ダラダラとした態度で表彰状を受け取ると、たとえ強くても、不快に思

う人もいるかもしれません。一方、強くて、礼儀正しく表彰状を受け取る選手を見ると、誰もがその選手を応援したくなると思います。

たった一つの礼儀作法や、丁寧な発言を心がけるだけで、その人のイメージや印象が様々な捉え方に変わると思ひます。これらのことから、より礼法は日常の中で必要となってくるし、大切だと感じました。私は、面接、表彰挨拶など、どんな場面でも礼法で学んだ実習が役立つかはわからないけれど、日ごろから一つひとつ心がけて生活していけるようにしていきたいです。

松谷 朝空(14歳)

「大切な人間関係を正しく円滑なものとするのが『礼』である」教科書の初めに記載されている一節ですが、初読した際、この言葉が礼法の本質であると感じました。

私は、高校に入學し、初めて学んだ礼法の授業で、いかに自身の普段の礼儀が疎かになっているかを実感しました。正しい姿勢で授業を受けられているか、挨拶は欠かさずにできているか、毎日弁当を作ってくれている母に感謝はできているか、あげ出すと切りがなくな、自分の行いを恥ずかしく思ひました。

しかし、礼法の授業は自分の行動を振り返り、見つめ直し、改善する時間でもありました。基本の姿勢、動作の順番など、一つひとつのことに大切な決まりや意味があることを知り、より一層普段の礼儀を大切にしようと思ひるようになりました。

「大切な人間関係を正しく円滑なものとするのが『礼』です。これからもこのことを忘れないように生活していきたいです。

大國(こはな)(15歳)

私は、入學する前から、北陵高校には礼法と言う授業があることを知っていました。礼法とはどのような授業なのか、本当に授業をして必要なものなのか。私は礼法についてすごく興味を持っていました。しかし、いざ、礼法の授業が始まると自分にはできていない礼儀作法や初めて知ることばかりで驚きました。そして、礼法の授業はどの内容も大切なもので、この先、ひとりの大人として生きていくからには必要なのだとわかりました。

また、北陵高校の礼法は代々受け継がれてきた伝統があるので、私たちはしっかりと礼法を学ぶ義務があると思っています。ここでしっかりと学ばなければ、北陵高校の伝統が崩れてしまいます。礼法で学んだ事は将来必要になるものもあれば、今でもできていないと困るものもあります。

私は、これからも学んだ事は普段からできるようにして、卒業したときに学んで良かったと思ひるようにしたいです。



第53回島根高校写真展審査会 金賞

今月の1枚

「蜘蛛の糸」

馬庭 葵琳(3歳4)